

令和5年度 独立行政法人日本スポーツ振興センター新博物館展示・運営に関する有識者懇談会
(第3回) 議事要旨

1. 日時 令和6年1月10日(水) 15:00~16:30

2. 場所 秩父宮記念スポーツ博物館(船橋倉庫)

3. 出席者

・委員

荒木委員、池田委員、黒川委員、萩原委員、町田委員(計5名)

・事務局

須藤館長、新名学芸員、木村学芸員

4. 視察

事務局より参考資料1(懇談会後回収)、参考資料2をもとに、収蔵庫の概要、博物館資料、図書館資料、デジタルアーカイブ作業について施設を案内するとともに資料の説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

【展示】

- 新しい博物館の展示は、資料を静的に見せるだけでなく、アスリート当事者や関係者の話を活かした動的な見せ方ができるとよい。
- 研究者などとスポーツへの造詣を深める勉強会などを進め、オリンピックに関して、展示をJOCと連携しながらできるとよいのではないかな。

【収集】

- 新たな資料収集はアスリートに依頼すると寄贈してくれるのではないかな。
- 受け入れられる数量が限られるのであれば、先んじて、どういうものを収集したいかを決めて動くことが重要。
- アスリートとして寄贈を依頼されるのは嬉しい。
- アスリートへの寄贈依頼は嬉しい反面、博物館は管理が大変になるのではないかな。
- アスリートは展示への提供やユニフォームの着せ方などで協力ができると感じた。
- アスリートからの寄贈対応は、受入の範囲を拡げ過ぎず、競技連盟にも配慮し、整理して取り組めるとよいのではないかな。

【デジタルアーカイブ】

- すべてをアーカイブしてから見せるだけでなく、アーカイブに関わる活動そのものを見せることにも意義がある。
- スポーツの衣装、開会式の衣装、ファッションなど、競技以外の展示にも興味を持つことができた。
- 最新の状態をアーカイブするという点について、100年後はこうなっている、と再びアー

カイクを継続して行うことも今後の課題として考えられる。

- 展示に「動くアーカイブ」があるとよいのではないか。
- 個人のアーカイブ資料の取り扱いがネックになると思うが、著作権について最近では、「オプトアウト」、言われたら引っ込めるという方法も取られている。権利関係が不明な資料に関してはオプトアウト方式で、博物館やスポーツ庁などから公式声明を出しておくことでよいのではないか。
- 「ここまで調べたが権利者を特定できず、権利者の方にはお知らせをいただき次第、対応する」といった弁明を入れながら、対処としてオプトアウトするとよいかもしれない。

【博物館・図書館の在り方】

- 図書館資料は、研究者による利用の便からは分散して所蔵されるよりも1か所に集めて現物が見られる環境にして欲しい。新しい博物館の図書館資料エリアだけで保管できないということであれば、デジタルアーカイブ化を進め、図書館資料は倉庫などに別置して利用できるようにし、博物館の展示室エリアを増やすといった運用も検討できるとよい。
- 「秩父宮記念スポーツ博物館」という宮様のルーツをもつ施設として、なぜ、そうした名称になったのかを丁寧に伝え続けて欲しい。

会議閉会に際して、事務局から第4回有識者懇談会は日程調整の上、2月に実施予定と事務連絡があった。

(以上)